

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を意識したプランとなっています。

2 人材発掘

★ 世代間、地域性を超え、学校を様々な目線から見てもらいたい。

- ・学校運営協議会を、若い世代の加入により世代を超えて活動する組織とする。
- ・地域性を考慮し、津田小学校区が一体となって活動できる組織とする。
- ・PTA 会長、佐伯商工会青年部、浅原地区の民生児童委員及び新規移住者の 4 名が新たに加入
学校運営協議会の創立メンバーからは、「新しいメンバー、若い力に期待する」「浅原小が閉校し、どうなるかと心配していたが、浅原の子どもが増えてきた。応援したい」などの声があり、新メンバーからは「やりたいことをやらせてもらえる」そして「温かく受け入れてもらっている」など感謝の言葉がありました。新旧の委員がお互いをリスペクトし、協働して学校をサポートしていこうという熱意を感じることができました。



3 学校運営協議会の機能化

★ 課題解決や行事の企画など学校運営の具体的な事項について対応できる組織としたい。

- ・学校運営協議会を年間 6 回開催し、毎回を熟議とする。

学校評価に関する説明もあったが、多くの時間は、津田小学校の課題やどんな学校にしていきたいかという協議に費やされ、委員の方からは熱のこもった意見が多く出されました。案をもとに具体的な動きを創る意見が多くありました。

学校運営協議会年間計画

(津田小) 学校

	開催予定日				備考
第 1 回	4	月	23	日	13:30～
第 2 回	6	月	6	日	10:00～
第 3 回	9	月	27	日	15:40～
第 4 回	11	月	11	日	10:00～
第 5 回	1	月	16	日	10:00～
第 6 回	3	月	7	日	15:40～

第 1 回学校運営協議会での意見（抜粋）

- ・子どもと先生との距離感が大切である。担任以外の大人との関わりがあるとありがたい。
- ・地域性を出していくと良い。遠くの学校との交流があっても良いのではないか。
- ・これから少人数になっていくので、近隣の学校との交流も必要である。
- ・「げんき部会」などでクラブ活動につなぐことができないか。
- ・津田小学校区の地域性が良い。浅原からも子どもが増えた。
- ・野外活動は、浅原において 3 年計画で実施したい。



学校運営の柱のひとつ「読書環境の向上」について学校運営協議会委員が図書室を見学し、課題と解決策を協議しているところです。

このほか、地域資源である「津田ひまわり畑」を教育活動に活用できないかという意見が出され、佐伯商工会青年部の種まきに津田小学校の児童も参加することとなりました。子どもたちの活躍の場を創ると同時に地域の活性化につながる取組となりました。

廿日市市教育委員会生涯学習課

〒738-8501 廿日市市下平良一丁目 11 番 1 号

TEL(0829)30-9203 FAX(0829)32-5163



市ホームページ